

奈良女子大家政 ○太田さち 梁瀬度子 磯田憲生 聖母女学院短大 國嶋道子

**目的**：団らん空間のあり方に関する研究の一環として、これまでに得られた結果をもとに、新たに調査を行い、主に、主婦の団らんに対する考え方、及び意識が団らん空間に関与する影響について明らかにする。

**方法**：奈良県下、大阪府下の集合住宅を対象に、アンケート留置自記法で行った。調査期間は、1985年10月下旬～12月上旬。配布数は307票、有効回収率90.9%、有効回収数は279票。主な内容は、1) 主婦の心情傾向、2) 生活に対する意識、3) 団らんに対する意識、4) 団らん空間に対する意識及び実態、5) 雰囲気の主観的評価、である。1) 及び5) は、5段階SD法で行った。

**結果**：今回の調査においては、団らん空間の雰囲気評価をもとに因子分析を行い、「重厚感」「近代性」「気楽さ」「価値」「暖かさ」の5因子が抽出された。また、主婦の心情傾向は、因子分析により「社交性」「実直性」「積極性」「楽天性」「保守性」「勤勉性」「努力性」「思慮深さ」の8因子が抽出された。さらに、因子得点をもとにグルーピングして、雰囲気との関連をみた結果、心情傾向は、団らん空間に対する考え方に関与する影響を及ぼしており、また、団らん空間の雰囲気にも、直接的、間接的に影響を与えていることが認められた。さらに、前回の調査との比較も行った。

1) 渡辺他：だんらん空間の雰囲気に関与する諸要因に関する調査研究（第4報）家政学会大会研 p.199 1984.9

2) 太田他：だんらん空間のあり方に関する調査研究（戸建住宅の場合）（第2報）家政学会大会研 p.198 1984.9